

平成 25 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会会議録

日 時 平成 26 年 3 月 20 日 (木) 午前 10 時 00 分～11 時 20 分

会 場 門真市役所本館 2 階 第 7 会議室

出席者 柴田委員長・松宮副委員長・藤井委員・寺西委員・脊戸委員 (西村委員・並松委員欠席)

事務局 西山地域教育文化課課長補佐・学校教育課渡辺副参事・地域教育文化課清水主任

<事務局> それでは、ただいまから平成 25 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を開催いたします。

まず本日、西村委員と並松委員の欠席をお伺いしておりますが、委員 7 名中 5 名が出席していただいておりますので、本委員会が成立していることをご報告いたします。

つぎに、配布しております資料の確認をさせていただきます。

最初に、第 2 回推進委員会議事次第です。

資料 1、経過報告、平成 25 年度めざせ世界へはばたけ事業について、です。

資料 2、プレゼンテーションコンテスト応募者数一覧表です。

資料 3、事業評価報告書および事業評価表です。

資料 4、平成 26 年度めざせ世界へはばたけ事業予定 (案) です。

お手元がないものがございましたら、ご連絡いただきますようお願いいたします。

よろしいでしょうか？

それでは、これからの進行を柴田委員長にお願いします。

柴田委員長よろしくお願ひいたします。

2. 事業経過報告及びその検証

<柴田委員長> おはようございます。早速ですが議事次第に添って進めさせていただきます。案件 1 ですが、こちらは点検評価が中心になっています。まず、今年度事業の結果報告と検証に入りたいと思います。

今年度事業、第 2 回門真市中学生海外派遣研修について、事務局から説明をお願いします。

<事務局> それでは、ご説明申し上げます。資料 2 をご覧になりながら前のスクリーンをご覧ください。

(パワーポイントによる事業報告)

第 2 回門真市中学生海外派遣研修は、昨年平成 25 年 8 月 3 日 (土) から 12 日 (月) までの 10 日間、第 2 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストにおいて、最優秀賞と優秀賞を獲得しました 9 名と引率職員 2 名、そして添乗員 1 名が同行して、オーストラリア、アデレード市等で行いました。研修先は、昨年度と同様のチャールズ・キャンベル・カレッジ校です。今回は、昨年より約 2 週間日程を前倒しし、出発日を土曜日とし、現地到着を日曜日に設定して、研修生が負担なく学校に入ることができるように配慮しました。授業への参加、課外活動、市内見学など短い期間にたくさんの経験を盛り込んだものになっておりました。

このスライドはチャールズ・キャンベル・カレッジ校ですが左上の隣に小学校がありまして、急遽プログラムが変更になりまして、小学校 3 年生と 5 年生の授業に入らせてもらいました。前日に、その内容を聞いて引率の先生と相談しまして、子供たちが被っていた兜 (サムライハット) を作りました。その他、右側のスライドがサッカーの授業、あと折り紙がコミュニケーションを取るのにユニークな手段となり生徒たちも上手く身体で表現して言葉を発していました。

これは市内見学ですが、右上がアポリジニーの資料館です。それ程大きくはないのですが子どもたちも興味深く見てしました。左下が州立議事堂です。こちらが赤のじゅうたんだったので、日本でいう衆議院の本会議場です。緑の部屋と赤の部屋の 2 つを見学させていただきました。

真ん中は、クリーンランド保護区の公園ですが、雨でしたがカンガルーとコアラを見ました。

次のスライドは最終日の前日になりますが、ウェルカムパーティーで、バディーの方たち

と学生と一緒に写真を撮ったものです。

下のスライドは、プレゼンテーションコンテストで発表しました同じ内容を生徒が順番に発表しました。このセレモニーの時の踊りもしっかり練習して子どもたち中心で、しっかりできたと思います。

これは9月1日に行いました帰国後の交流会の様子で、生徒とともに三宅教育長にも入っていただきまして、活発な意見交換を行いました。

第1回の派遣研修生にも参加していただき、この後に同窓会という形を行いました。今後同窓会という形をとっていきたいと思っています。

つづきまして、第3回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについてご説明いたします。

第3回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストは平成26年2月23日(日)1時から3時40分までルミエールホール小ホールで行いました。

1次審査は、平成25年10月4日(金)に、教育委員会で日本語と英語の審査を行い、二次審査は松宮教授にお願いしまして平成25年12月1日(日)に面接による審査の結果、通過した生徒は18人でその内の1人が辞退し、プレゼンテーションコンテストに17人が出場しました。

このスライドは、第2回の事前研修です。教育長のご挨拶の後、ポスター(模造紙)を作る作業に入ったのですが、1人1台のテーブルを用意し関西外国語大学の学生もそれぞれに付いていただき、市内の中学校の英語担当の教諭にも支援いただいて、かなり内容の深い研修になったと思っています。

第3回の事前研修は、平成26年2月22日(土)のコンテスト直前に行いました。この時は松宮教授に講義をお願いしました。その後は3会場に分かれてプレゼンテーションの練習を何度も行いました。この時に出席していただいた市内中学校英語教諭からは、この3回の研修がコンテストの回を重ねるごとにわかりやすく、よくなっていると意見をいただいております。

今回のプレゼンテーションコンテスト応募にかかる課題は、市内在住の私立中学校、国立中学校の参加がなかったことがあげられます。来年度は、市内市立中学校同様、主だった国立・私立中学校に積極的に働きかけを行い、趣旨説明を行い応募数が増えるような取組を行いたいと考えております。

プレゼンテーションコンテストの事前研修での意見としましては、現在3回事前研修を行っているが、もう一回、2回目と3回目の間で研修をしてほしいと要望がありました。

コンテストの応募者数ですが、資料1と資料2をご覧ください。今回の第3回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストの応募者数は386人で、市立中学の在籍生徒数が1年生1,135人に対して1.3%、2年生1,182人に対して31.4%が応募しております。2年生が中心になっている事が特徴としてあげられます。学校別の内訳を見ますと、第三中学校と第五中学校、第七中学校の方で主立って取り組んでいただいていると分かるのですが、第二中学校と第四中学校の生徒にも来年度は積極的に説明を行って、ご協力いただける様に取り組んでいきたいと思っています。

以上で、プレゼンテーションコンテストと海外派遣研修の報告を終わります。

<柴田委員長> ありがとうございました。今、事務局から事業経過報告とその検証について報告がありましたが、これについて何かご意見、ご質問はございませんか。

<松宮副委員長> 資料2で、今ご説明いただいた通り1回、2回、3回と数が増えてきているのですが、数ではこれが上限くらいの目安になると思っています。問題は、1回目に一中(はずはな中)と七中、2回目に一中と七中と三中に火がついて、3回目に五中に火がついたという事で、後は全く1回目から参加がない二中と四中です。情報をどう共有していくのかという事もありますので、この二中と四中という過去3年間で動きが全く変わらない、あるいは参加しないという、その辺りをそう分析するのかという事と、いかにどういう風に火をつけていくのかという事が1つの大きな課題です。その辺りは何か具体的に事務局側として情報を持たれているとか、例えば、ある意味で校長先生にご協力いただくと、校長先生の責任になってしまいますので、要するに無作為という事になります。その辺りで事務局側として、お持ちの情報と今後の段取りについて、二中と四中の方にどのように取り組んで参加していただくかということを検討されていたら教えてください。

これは門真市の中学英語の先生の研究協議会とか、いろんな人間関係やネットワーク等で、当然ご存知だと思います。3回も行っていきますし、新聞にも掲載されたことがあると聞いております。その辺りはどうでしょうか。

<事務局> 現在、来年度に向けて市内の中学の英語教諭の協力していただける体制になってきておりますので、そのネットワークを通じて二中と四中の先生方や校長先生にもご協力いただける様に声かけと足を運んでお願いに伺う予定です。

実際に今まで2回の海外派遣研修に市内の中学校の英語教諭が参加していただいたことが非常に大きくて、その経験から各学校でプログラムの説明やコンテストの説明をしていただいております。英語の教諭が集まった時にも報告していただいているので、有意義に進んでいると思います。ただ、事務局として今後努力いたしますので、その辺は積極的に取り組んでいきたいと思っています。

<松宮副委員長> 有難うございました。

<柴田委員長> 他に何かございますか。

なければ、私から訊ねますが、去年は私立と国立から応募があったのですが、今年なかったという事で、積極的に働きかけを行いたいとありましたが、具体的にはどんな事を考えているのか教えてください。

<事務局> それについても、二中や四中と同じだと思うのですが、主だった所にポスターならびに案内状を送るのですが、それ以外に事務局自らがどこまで行けるか分かりませんが、国立・私立中学校へ出向きまして実際にお願いをしていきたいと考えております。

<柴田委員長> 続きまして、本事業が始まってからちょうど3年たつことからこれまでも振り返りながら、今後の本事業についてご意見をうかがっていききたいと思います。

まず、事務局より資料の説明をお願いします。

<事務局> 事業の振り返りにあたり、二つの資料を用意させていただきました。資料2と資料3をご覧ください。資料2は、第1回プレゼンテーションコンテストからの応募者数を表しております。資料3につきましては、平成23年度から平成25年度まで事業評価シートというものを学識経験者であります推進委員の方をお願いしております。その報告書となっております。平成25年度は松宮教授だけいただいておりますので、一番後ろに付けさせていただきます。評価内容につきましては、それぞれ平成23年度と平成24年・25年の2つとは若干評価内容が違いますが、主だった内容としましては、まずは目標数の能力が備えられているかということです。それは確実に育っていると思うのですが、まだまだ課題もあると思っています。その事業評価についてご意見をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

<松宮副委員長> よろしいでしょうか。今年度の事業評価とこれまでの3回の事業評価を短い時間で振り返りながら見たのですが、一番重要な事は参加した生徒の中で、今回は386名ですが、どうしても私たちの目には研修をはじめとして、3回していますが選抜された学生の評価やパフォーマンスに目がいってしまうのですが、実は一番重要な事業の狙いというのは参加した386名、勿論1次の日本語英語作文の段階で次のステージへ進めなかった子どもたちもいるのですが、それも含めて門真市全体が、どの様になっていったかというのが見て取れる様にしていかなければならないと思います。

ここに一番最後のコンテストについては、コンテストと書いてありますが、出場者が目標とする能力を備えられたかということころは、低く点数を付けた理由として、17名が残って、その子供たちがリハーサルでどの様に力を付けたかとか、当日のコンテストこれは間違いなくレベルアップしています。これは中学生としてはすごいです。と、いうところだけ見るのであれば、能力を備えられたかということ、非常に高い評価になります。けれども、やはり事務局側また委員として、この事業を設置したそもそもの大きな目的とは、門真市の英語教育とか門真市の教育、地域の教育力を高めていくという一番の施策があるのでしょうか、それに関してほんの一部の氷山の上の部分の子供たちを見てしまっているのではないかという、自分への問いかけも含めて、良かったですよ。というもろ手を挙げていうものではないということ、次回への期待を込めての評価となっています。やはり、先程の応募者数のところにもありました様に、3回の歴史を見ますと、はすはな中（一中）と七中のライン、さらに五中のライン、三中のラインもできています。そうすると、もう1つこの辺りのところでラインを作って、数少なくても門真市の公立市立の中学校の意識が変わってくることによって、

この事業の出場者という意味については中学生が能力を高めていくというものに繋がっていくのではと、批判的に見させていただくという事で今回こういう結果を付けさせていただきました。

それ以外に関しては非常に出場者や選抜された子供たちの様子を見る限りは、本当にこの3年間上へ上へときています。そこには英語科の先生方の取り組み等に評価できるのかと感じています。

<柴田委員長> > ありがとうございます。

他に何かありますか。

<脊戸委員> この人数の問題ですが、一中と六中（はずはな中）が今回少なくなっています。七中も少なくなっています。これは聞くところによりますと、各学校で選抜といいますか、事前にコンテストまでされているかは存じませんが、そういう事をされているという事でいうと、コンテストに代表を出すのが為になっているのではないかなという部分も読み取れるのではないかなと思っています。中学生全体の英語の能力を上げていくという部分でいうと、少し最初の我々の思いからすれば離れていっているのではないかなというところも見受けられますので、いかがなものかと思えます。

<柴田委員長> > 選抜という事は、この数字には上がっていませんが、その過程ではもつとあったということですか。その確認はしましたか。

<事務局> 七中は独自でコンテストをしたいということをお聞きしておりました。今回は出来なかったらしいのですが、そういう事を考えられていたという事も伺いました。その為に事前研修にも校長先生が見学に来られていたのは、そういう背景があるのではないかと思います。

<柴田委員長> 学校でコンテストをするという事は、その学校で英語の先生が協力しないと出来ないものですから、それはそれなりに取り組みとしては合っているのではないかと思います。

<松宮副委員長> そういう学校の取り組みとしては、非常に良いと思います。確かに何の指導もなく百数十人出てくる学校もあれば、その学校である程度、授業の中に位置づけて、その中で基準を満たした優秀な生徒を送り出すというスタイルが出てくると、本当に裾が広がってくるのではないかと考えられますので、この事業のそもそもの目的が達成されるのではという印象を持ちます。今年は出来なかった様ですが七中の取り組みは非常に大切な部分ではないかと思えます。

<柴田委員長> 他に何かありますか。

<藤井委員> 学校の取り組みというのは、校長と英語教諭の取り組みということだと思います。二中・四中・五中は、生徒指導の課題が大きな学校で、なかなかこの事業まで手が回らない状況だったのかもしれませんが、五中については、今回は宿題という形で取りまわるとか英語教諭が中心に努力があったのだと思います。四中の状況を見てみますと、人数は少ないのですが最後まで残って、かなりしっかりと出来ていたと思います。

校長と英語教諭を通して、いろんな働きかけがある中で、出てくるという事も1つの道ですが、その生徒にダイレクトにこの事業の素敵さを伝える取り組みというのも、一方では必要ではないでしょうか。例えば、募集の手紙は全員に配布していると思いますが、そこにこのコンテストの主旨をもう少し、もともとのスタート時点の狙いをもう少し盛り込んだもので、きっちりメッセージとして伝えることも必要だと思います。今年のコンテストも粒ぞろいでしたが、最終に残った生徒は一定均一化してきているという印象もあります。初めから英語力には問題がないが「本市らしい何かを持っている」そういうコンテストだということを広く伝え、そのうえで英語力については研修の間に、きっちりつけてもらうという仕掛けが出来れば良いと思います。

<脊戸委員> 日本文で見させてもらおうと、内容にかなり落差がありました。先生から宿題として指示があったのでお付き合いで出したとかなどを記述されている生徒も結構おりましたので、そう考えると日常的な英語の先生と子供とのやり取りの中で、もう少し全体のレベルアップをするという視点で市は考えないといけないと思いました。

<柴田委員長> 四中は貴重な1人でした。その子の応募のきっかけが広報なのか学校の貼紙だったのかは分かりませんが、私立中学校を含めた学校への呼びかけも、もっと生徒一人ひとりに何か届く様なメッセージでないといけないと思います。

いつも松宮教授が仰ってられる様に英語のスピーチで優勝を競うパフォーマンスではなく、プレゼンテーションという皆さん聴衆の心を掴むという事。そういう事も研修で身につくと思いますし、英語が世界で通じる言葉という事でありますが、英語だけでなく、地域においてもこれからの人生においてもプレゼン能力が身につくという、そういう所も含めてPRの仕方を考えていけば良いと思います。

＜柴田委員長＞ 他に何かありますか。

＜寺西委員＞ 私も3年間見てきましたが、1期生と2期生の生徒の皆が今回も集まって、発表している子を応援してくれているのを見てみると、学校を越えてこの事業で仲良くなって、それが続いていると感じ、すごく良いと思うのですが、コンテストが右上がりレベルが高くなると、見てくれている子はしんどくなってくのではないかと。裾野をどう広げて本番まで持っていくのかという事を考えておかないと、出来る子だけの発表になっていきます。初めの「門真市全体の生徒たちの」という部分を大事に、毎年レベルが上がるに連れて、考えていかないといけないと思います。

＜松宮副委員長＞ 言われたとおり、レベルが上がっていくと、本当に見てくれている生徒は自分がいるのだろうかということになると思います。

別の観点から言うと、英語の発音が良いとか、正確な英語を言っているというレベルと、生徒のタフさのレベルは、しっかりしてきていると思います。仮に門真市で英語の発音が最高で英語の文法力が最高の子供たちを7・8人集めて、オーストラリアへ送り出すのと、今回の様にごちゃごちゃとした中で最初は訳の分からない日本語から出てきた生徒たちが人間関係の中で育ってきたタフさを持ったグループとを比べたら、全然結果が違ってくると思います。帰って来てからも人間関係を維持、持続できるというところが、このコンテストの一番良い部分になっていると思います。そういった意味で評価基準も他市で行っているスピーチコンテストとは違った観点で行っていますし、その辺りの主旨を二中・四中の先生方にも浸透する様な努力を事務局側がしていかなければならないし、3回もの貴重な生徒たちのデータが残っているのですから、短いプロモーションビデオを作って、私立中学校や国公立中学校にも提供してあげる事も出来るかと思えます。ただ行って楽しくしているところだけではなく、研修の様子や白紙の模造紙が完成していく様子等を作っていけば宣伝にもなると思います。

＜柴田委員長＞ 有難うございました。また何かありましたら、お伺いいたします。つづきまして、平成26年度事業予定について事務局から説明をお願いします。

＜事務局＞ それでは、ご説明申し上げます。資料4をご覧ください

平成26年度門真市めざせ世界へはばたけ事業予定表(案)をご覧ください。

26年度は、4月から海外派遣研修の準備ということで保護者説明会、事前研修を行う予定にしております。また、案ということで6月に平成26年度第1回本推進委員会を開催予定に挙げております。ここでは、海外派遣研修の内容報告、海外派遣研修後の取組、第4回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストの実施要領の確認などの検討を考えております。

来年度の推進委員会の実施日につきましては、平成26年度に改めて、委員の皆さまにご連絡させていただき、調整させていただきたいと考えております。

＜柴田委員長＞ 意見をいただく前に先程の説明ですが、事前研修を2回目と3回目の間にもう1回増やして、3回を4回に増やすということですか。

＜事務局＞ はい、そうです。

＜柴田委員長＞ それはここには反映されていないのですね。大学の協力なしには成り立たないので、その辺りも含めて検討するという事ですね。

＜事務局＞ はい、そうです。

＜松宮副委員長＞ 外大として、うちの学生を鍛えていくという別の観点からしても、回数を増やすという事には全く問題ありません。スケジュールだけだと思います。我々教員が入るとなると入試等もありますので、非常に限られてしまいますが、学生を派遣し参加される先生方が自由に使えるような体制を強化していきたいと思えます。是非、ご提案いただいた形で対応していきたいと思えます。

＜柴田委員長＞ 有難うございます。学生の方についても誠に親身になっていただき、年代も近いという事もあり、本当に参加した生徒も頼りにしていますし、何よりもいきいきと明るい表情で取り組んでいただいているのが、本当に有難いと思っております。また、今後と

もよろしくお願ひいたします。

この事業予定について、他にご意見ありますか。

<藤井委員> 反省の部分に加わるかもしれませんが、プレゼンテーションコンテストの運営について、今年度の通った子と落ちた子の最後の状況があまりにも落差があって、これを教育的にどうしようかと思っております。通った子があとで集まって来ますが、どちらかというところ落ちた子のフォローをしっかりといていくには、最後は軽く流した方が良いのではないかという感じがしました。写真とかなくして、発表が終われば、松宮先生の講評か何かで終わった方が良いでしょう。

<脊戸委員> 通った人は集まってくださいという風に、すぐに差がつきますから。

<藤井委員> 個別には後日行うというやり方が良いでしょう。

それと、聞いているとどうしても英語力に引張られてしまい、英語力のある子は意欲が高いというのがあるのかもしれませんが。

選考の1次の段階で、門真らしい子を残すという様な仕掛けも要るのではないのでしょうか。最終段階で研修の中で延びてくる、とにかく自分は海外でこうしてこうしたいと思っているけれども、上手く英語にできないという子も救われると、門真らしいという気がします。

<柴田委員長> そうですね、必ずしも英語のできる子ばかりではなく、自分の主張というものを日本語でしっかり書いて、単語とかではなく、それを相手に伝えられるようになる人材を育てる訳ですから、そういう視点も忘れない様に行っていきたいと思っております。

それともう一つ、失礼な言い方になるかもしれませんが、同じ方が常に質問をされているわけではありませぬので、今回は奇数の方と偶数の方に分かれていて、質問内容も少し差がありましたので、二人が同じ方に質問する形の方が良いでしょう。

<松宮副委員長> 実は、コンテスト中に付き添いの先生の方から「有利・不利というのが出てきますか。」という質問をいただきました。「そういうことはありません、Aの方が質問されてもBの方が質問されても、その受け答えの正しい・間違いではなくて、いかにやり取りが出来るかというところを見ています。」とお伝えしましたが、来られている保護者の方や先生方からすれば、有利・不利が出てくるのではというのであれば、来年度からは打ち合わせをしておくとか、A・Bの方から1問ずつ質問していただくという風に、どなたが見られても納得できる公平性というものを配慮していきたいと思っております。

<柴田委員長> 会場に来られている皆さんに、もう一度この事業の主旨を伝えて、審査のポイント、単に英語力だけではなく、これはプレゼンですから、質問もあります。英語で答えられなくても自分らしい受け答えができるかというところが審査の対象にしています。とお伝えするのも一つだと思います。

<松宮副委員長> それは機会があれば、是非、審査の基準というものを市民の方にも先生方にも、お伝えする事は大事だと思いますし、それがプレゼンテーションコンテストとスピーチコンテストの大きな違いになりますし、次回は是非そういう事も含めて司会の方からか、代表の方からプレゼンが始まる前に「そういう観点でご来場の方も楽しみ下さい」と伝えていただければ非常に有難いです。

<脊戸委員> 当日の優秀賞と奨励賞の差をつけないと仰っていたのですが、事前研修で「これはコンテストで明白に差が付くけれども、それが目的ではありません。」というのは生徒たちには伝えていました。その後、事務局からも十分に子供たちにはしたつもりでしたが、やはり本番になると明白な差が付きますので泣いている生徒もいましたし、それは厳粛に受け止めなければならないと思っております。

<松宮副委員長> 挫折は挫折で経験です。中1・中2で挫折することはある話ですが、それをできるだけ小さくする工夫というのをすべきだと思います。それと、当日参加される方は、関係者だけだったので、小学生にも募集の告知の様にプレゼンの日程の告知があっても良いのではないのでしょうか。

<脊戸委員> それは知らせていますか。

<事務局> 小学校にはポスターだけになり、最後の「来て下さい」というのは中学生だけになってしまいました。

<藤井委員> 小学生も本当に興味のある子が来てくれたら、少しでも繋がりますね。

<松宮副委員長> そうですね。中学1年生が出ているわけですから、6年生からすると自分の次のイメージや姿が描きやすくなるので、是非それはお願いしたいです。

＜柴田委員長＞ 難しい要求ばかりしますが、ポスターとかそういうものは、もう少し事業名だけでなく伝える部分としてあってもいいのではありませんか。

＜脊戸委員＞ 小学校には訪問し校長先生とお話する機会があり、学校の黒板カレンダーを見ましたら、2月23日にプレゼンテーションコンテストと記入してあったところもありましたが、ほとんどの学校には記入がありませんでした。校長先生や教頭先生もなかなか認識をお持ちいただいていないのだと思い、やはり何かの仕掛けは要るのだと感じました。

＜藤井委員＞ 5・6年生の教室にポスターが貼れると、素敵なポスター。来て下さい感が溢れているポスターを作っていただいで教室に貼るといことが大事だと思います。

＜寺西委員＞ 一点、日程のところですが去年の声を聞いていますと、実は学年末テストに当たってくるので1週早めてほしいというのがありました。今年の場合は50周年記念の行事等も沢山あり出来なかったのですが、来年度は3月1日という事で遅くなっていて、この辺りが多分学年末の頃になるのではないかなと思います。

＜柴田委員長＞ 3月1日ですか。

＜寺西委員＞ 会場が工事で使えない状況で、一番早いのがこの日だという事です。

＜事務局＞ 前の週はルミエールホールが使えない状況です。

＜寺西委員＞ 教員からは、1週間なら学年末テストに影響がないので有難いという事です。

＜柴田委員長＞ 工事の日程を確認しないとイケませんね。

＜寺西委員＞ あと小学校への周知ですが、生徒が誰かと分かる顔写真のある当日の案内のパンフレットを小学校の教員分くらいいただけたら、卒業生がいたら行ってみようということになり、また小学生と一緒に連れてきてくれると、その子が来年度中学に入ったらこれが出来るという様に思ってくれたら良いかなと感じました。

あと、「何故プログラムの写真を制服で揃えないのか。」という意見をいただきましたが、初めは私立の生徒も居て制服の生徒ばかりではないというのがあり、そういう形をとっております。そういう意見もあったという事をお伝えしておきます。ただ、私立中学校も対象になっておりますので、皆揃えてそこだけ私服というのもどうかと思いますので、その辺は検討が要るのかなという感じがしました。

他に、私も3回行っていきますと、知っている英語科の先生が増えてくるのですが、慣れている学校の先生というのは、次回までにここまでしとかなないとイケないとか分かるのですが、初めて生徒を連れて来た先生はという様なところもありますので、明確に1回目の練習はここまで、2回目はこういうイメージ、3回目はチームに分けて何回も練習するという様な各回のそれまでの取り組みとかも示してあげると、どの先生にとっても子供たちにも対応がし易いのではないかなという声もありました。

＜柴田委員長＞ では他にご意見がなければ、最後に今後のスケジュールについて、事務局から連絡をお願いします。

＜事務局＞ 先ほども申し上げましたが、海外派遣研修につきましては、3月25日の第1回門真市議会定例会の議決を持って確定となります。確定後は、海外派遣候補生に連絡し、参加意思の確認をいたします。その後、平成26年度4月下旬に保護者説明会を実施いたし、海外派遣研修事前研修を実施していく予定となります。平成26年度の第1回門真市めざせ世界へはばたけ推進委員会は、6月に実施したいと考えております。詳しい内容につきましては、改めてご連絡いたします。

以上で、説明を終わります。

＜柴田委員長＞

ありがとうございました。他に意見等ございましたら、以上をもちまして、平成25年度第2回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を終わらせて頂きます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。